

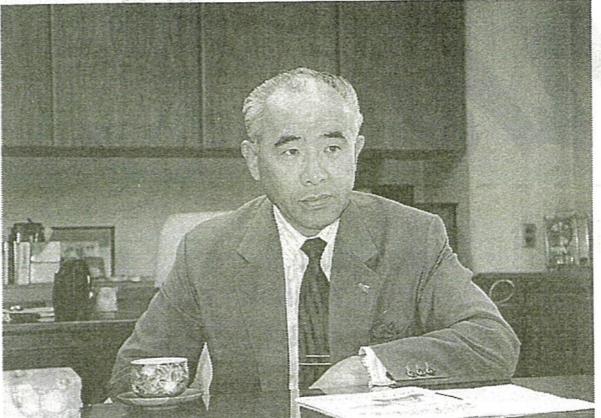
おめでとう  
ございます。



第27回全国木材産業振興大会  
受賞者決まる。



▲木材はDIYの基本



■プロフィール  
昭和八年富士市生まれ。二  
六年東京深川の井関銘木店  
勤務、二七年(株)遠藤木材本店  
取締役、四九年同社代表取  
締役社長、五十年(株)エンチ  
ヨー代表取締役社長就任。二  
日本ホームセンター協会会  
長等を経て、現在、(株)静岡  
県ユービジネス協議会副  
会長、(株)日本ドゥ・イット  
・ユアセルフ協会副会長。  
「イベント的な細かいこ  
とが好きで、常に何かをし  
たい」という弛まぬ探  
求心と「なるようになる」  
という樂天的な面が共存す  
る。ご本人の言。血液型O

## ハウツウを付けて

(社)日本ドゥ・イット・ユアセルフ協会副会長  
株式会社エンチヨー取締役社長

えん どう とし はる  
**遠藤敏東氏**

訪問インタビュー 第八回は、  
木材業からホームセンター業へ転身し一八年。昭和六一年

には株式公開し、年商三九〇億円と躍進を続ける(株)エンチ

ヨー・遠藤敏東社長。去る八  
月下旬ご多忙の社長室をぶら

り訪問。DIY産業の今、団  
体活動の在り方など幅広い話

題でお話し願った。

この人と30分

ぶらり訪問⑧



## キヤツシユ&キヤリーキヤツシユ&キヤリー

Q、住宅産業と将来のホームセンターとの関連は?

A、木材を大衆化する

木材・木製品を渴望する生

活者がいて、供給者が不在。

これが木材をめぐるひとつの需給の構図ではないかと思う。

効率の悪い住関連商品がビック

グストアの店頭から消え、そ

の狭間をついてホームセンタ

ーが専門店として進出、拡大

してきた。残念ながら日本の

ホームセンターは、素材の扱

いが小さくなり、家電、自転

車などの最終商品が増え、北

米のようなDIY指向の強い

素材中心型ではなく、バラエ

ティショップ型、ディスカウ

ント型の店づくりが多くなっ

ている。これは、ユーユーザーの

「住」に対する姿勢の違いや、

様々な素材を組み合わせる夢

の部分よりも、売場効率が優

先された結果。住宅建築を中心とした既存のプロの流通経

路とは違った「木材の大衆化

を推し進める」ためにも、素

材で特色を出す店づくりを目

夢は十兆円市場

Q、日本DIY協会の活動は?

協会の会員は現在約八百社で、全国に二千五百店舗。アメリカの実状と照らし合わせると日本の市場規模は二兆四千五百万円。夢を追う部分もあるが、将来これを八千十兆円市場に作り上げてゆくのが目標。そのために、毎年一回首都圏で全国の会員が出展するDIYショーカーの開催等広報活動を行うと共に、人材育成活動を行なうと共に、人材育成策として通産大臣認定DIYアドバイザーライセンス制度の普及、通信教育、全国主要都市でのマーケティング講座などの振

材はなぜ」の考えが、ホームセンター業への転身の動機でもあり、前述の新規諸事業の発想もこの「キヤツシユ&キヤリーエンチ」という現金、持ち帰り」だ。木材のプロの目には「どうしてあんなに高く売るのか、消費者は見る目がない」と映る

ようだが、お客様中心に考えてみると「欲しいものを欲しいだけ」提供すればよいわけで、木材に切り売りがあつていいし、無駄使いさせる必要もない。したがって当社の店頭に並ぶ木材は、規格、品質共才リジナル商品を提案し、売れ筋を確かめた後絞り込んだもの。

各地の消費者団体ともタイアップし、定期的に開催している公開講座「住まいの110番」の有料化など、お金をいただくサービス。エンドユーヤーに対し、使用方法、商品知識などのハウツウを付けて差し上げる。それをお客様が買うという感覚。これが本来のサービスの在り方ではないだろうか。

これまで木材は、住宅建築を中心で、大工・工務店と建主

## お金をもらうサービス

Q、木材と他資材、流通面での違いは?

当社の子会社に木材卸売会社があり、他のホームセンターにも納品している。かつて、地域で建築材を販売していた頃は、決済、配送面などで過剰サービスが非常に多く、当時は「金をもらわないことがサービス」が当然だった。ホームセンター業に進出し、サービスの把え方が一変した。木合板などを工作室でカットする加工費、配達料はもとより、

各地の消費者団体ともタイアップし、定期的に開催している公開講座「住まいの110番」の有料化など、お金をいただくサービス。エンドユーヤーに対し、使用方法、商品知識などのハウツウを付けて差し上げる。それをお客様が買うという感覚。これが本来のサービスの在り方ではないだろうか。

これまで木材は、住宅建築を中心で、大工・工務店と建主

という限られた範囲で把えがちだった。将来的には、これをもっと拡大してゆくことが必要だし、木材もこれに見合った新しい加工と売り方に変化させてゆかねばと思う。当社に即していえば、木材を売り、裾野を広げるため、関連する道具、金物、ペインントなど様々な商品を取り扱い、今日の業態に変身してきた。木材をいかにユーヤーにアピールし、活用、消費し、住まいの改善、演出をしていくだけに知恵を絞ってきた。その意味で、木材は「創造性を生む資源」だと考えている。

皆様方のご健康とご多幸をお祈り申しあげます。

Q、木材業に向けたひとこと。

これまで木材は、住宅建築

の改善、演出をしていくだけに知恵を絞ってきた。その意味で、木材は「創造性を生む資源」だと考えている。

皆様方のご健康とご多幸をお祈り申しあげます。

萩田 実(77歳)元裾野木協副理事長

鈴木正時(74歳)内外広葉樹協監事

山下 昌(69歳)静岡木協副理事長

稻名正至(57歳)清水港木産理事

(文責 編集室)

来たる十一月六日、広島市にて開催される標記大会において、木材産業功労者として、本会より左記八名の方々の受賞が決定いたしました。

◎林野庁長官賞(感謝状)  
伊藤公雄(66歳)天竜木産理事  
萩間明(70歳)前気田川木協理事長  
今泉正男(54歳)浜松木協副理事長  
設楽羊一(67歳)元掛川木協副理事長

皆様方のご健康とご多幸をお祈り申しあげます。

萩田 実(77歳)元裾野木協副理事長

鈴木正時(74歳)内外広葉樹協監事

山下 昌(69歳)静岡木協副理事長

稻名正至(57歳)清水港木産理事

(文責 編集室)